

子宮がん検診（神奈川方式）

動 向

神奈川方式による子宮がん検診は、神奈川県内に子宮がん検診のネットワークを構築することを目的に、昭和44年、日本母性保護医協会創立20周年を記念して日産婦学会神奈川地方部会との協力事業としてスタートしたものである。県産科婦人科医会会員医療機関から郵便により送付されてくる細胞、組織材料について鏡検・判定を行い、その結果を医療機関に返送しているシステムである。神奈川方式と呼ばれている。

精度管理については、当該医療機関の協力により精密検査対象者についての追跡調査が当協会の臨床検査部により行われ、県産科婦人科医会のご協力により年一回の報告会を開催している。

平成26年度は、頸部検診において検査数22,334件（前年比－1,449）、受診者数20,857名（前年比－1,182）となっている。

方 法

平成26年度の神奈川方式による子宮頸がん検診は、平成25年度からベセスダシステムのみの報告様式とし、精密検査結果は、病理診断の国際基準に従い子宮頸がんと上皮内癌を分類表記にした。また、ASC-USについて追跡調査を行い、HPV検査の実施状況も集計した。ASC-USの568名中、229名にHPV検査が実施され、陽性者116名、陰性者113名の結果であったが、HPV陰性者から5名の軽度異形成が見られた。今後の子宮頸がん検診に、細胞診とHPV検査併用の導入が望ましいと考える。

子宮頸がん検診

平成26年度の頸がん検診受診者総数は、20,857名（前年度22,039名）で、前年より1,182名（5.36%）の減少であった。

頸がん確定数は57名（前年度54名）で、その他のがんと体がんを除く、頸がん確定者は53名（0.25%；前年度52名0.24%）で、ほぼ同じであった。年代別では、20歳代5名（0.14%）、30歳代16名（0.27%）、40歳代17名（0.38%）、50歳代6名（0.23%）、

60歳代5名（0.20%）、70歳代4名（0.21%）で、40歳代にがん発見率が高い傾向を認める。20歳代では、上皮内癌5名のみで、特に30～40歳代では、上皮内癌20名（29名中）、扁平上皮癌5名（15名中）、上皮内腺癌4名（5名中）、腺癌4名（4名中）で、がん罹患率が高く、当年代の子宮がん検診の普及、受診率の向上が望まれる。

子宮体がん検診

平成26年度の子宮体がん検診受診者総数は、5,602名（前年度6,105名）で、陰性5,398名（96.36%）。陰性・再検7名（0.12%）；異常なし1名、追跡途中6名。疑陽性50名（0.89%）；体がんⅠ期6名（0.11%）、Ⅱ期以上1名（0.02%）、病期不詳1名（0.02%）、重複癌（体癌＋卵巣癌）1名（0.02%）、扁平上皮癌1名（0.02%）、良性疾患2名、異常なし21名、追跡途中15名、受診状況不詳2名。陽性7名（0.12%）；体がんⅠ期2名（0.04%）、Ⅱ期以上2名（0.04%）、腺扁平上皮癌1名（0.02%）、追跡途中2名（0.04%）。判定不能140名（2.50%）であった。その他のがんを含むがん発見数は15例（0.27%）で、昨年は50歳以上であったが、今年度は40歳代に3名のがんを認めた。

病理組織検査結果

平成26年度の病理組織検査件数は、397件（前年度353件）で、前年より44件（12.46%）の増加であった。病理診断結果は、子宮頸部扁平上皮癌10件（2.52%）、扁平上皮内癌40件（10.08%）、頸部腺癌1件（0.25%）、高度異形成4件（1.01%）、中等度異形成15件（3.78%）、軽度異形成100件（25.19%）、内膜腺癌3件（0.76%）、異型内膜増殖症3件（0.76%）、内膜増殖症4件（1.01%）、その他の良性疾患201件（50.63%）、異常なし14件（3.53%）、診断不能は2件（0.50%）であった。

関係の集計表は94頁に掲載